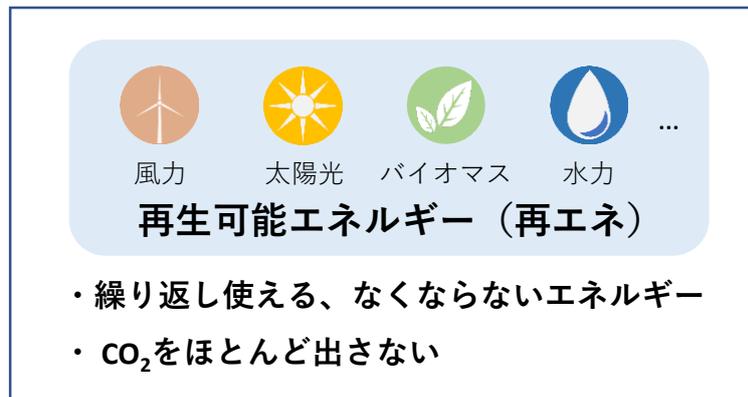


# 地域の再エネを地域で使う「再エネ地産地消」のまちづくり

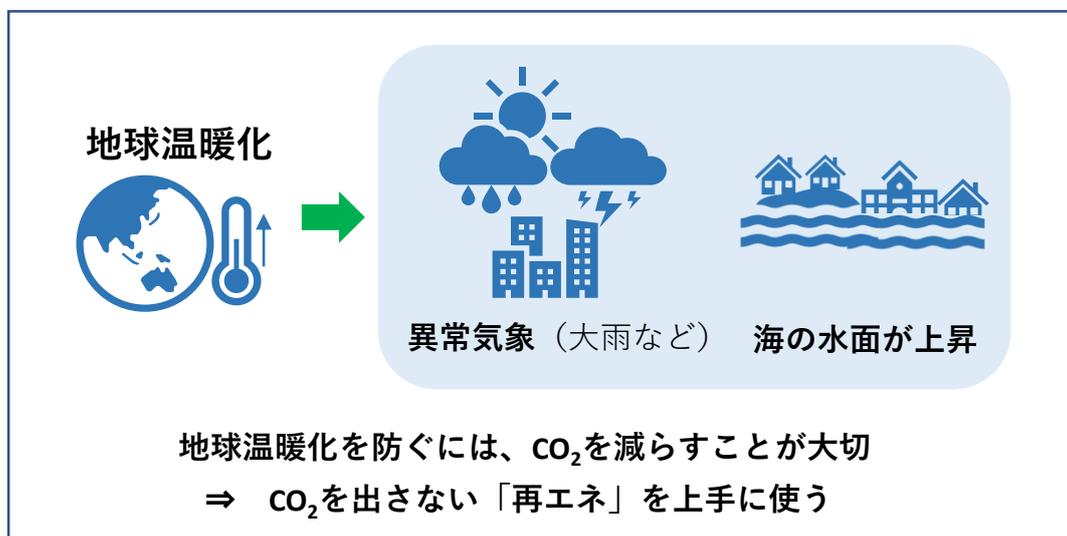
## 再エネとは？

- 風力発電や太陽光発電、バイオマス発電、水力発電といった、化石燃料(石油など)と違い、繰り返し使えるとなくならないエネルギー源を、**再生可能エネルギー(再エネ)**と言います。
- 再エネは、発電するときに**二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)**をほとんど出さない、環境に優しいことが特徴です。



## どうして再エネ？

- いま、世界では、大雨などの異常気象による災害や、海水面の上昇など、地球温暖化の影響で様々な問題が起きています。
- この問題を解決するためには、地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>を減らすことが必要です。
- そこで、世界中の様々な国が、CO<sub>2</sub>削減の目標を決めた「パリ協定」という約束を守るために取り組んだり、企業もCO<sub>2</sub>を減らすための取り組みをしています。
- この中で、**CO<sub>2</sub>を出さずに電気を作れる「再エネ」**が注目されています。



## 石狩市は再エネが豊富

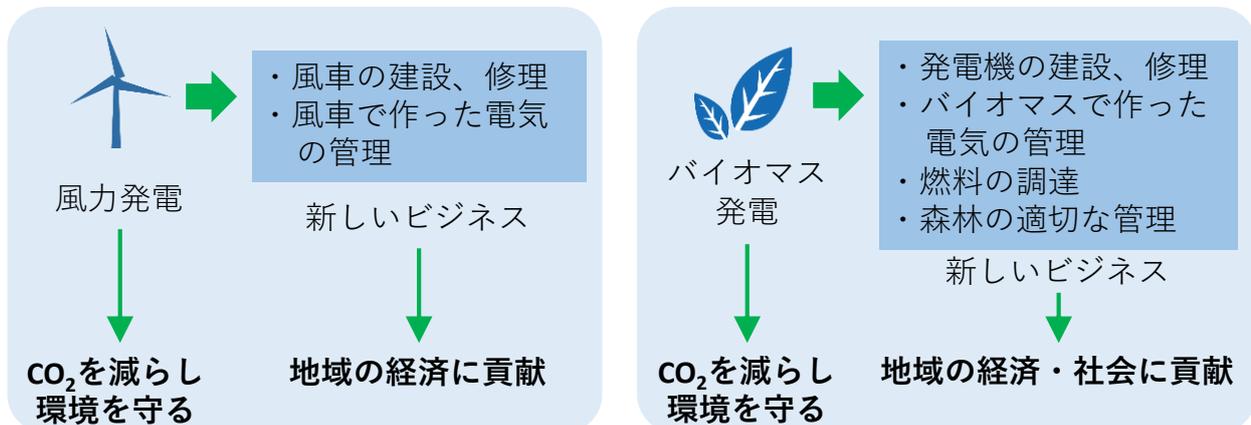
- 石狩市には、広い工業団地(石狩湾新港地域)があります。そこでは、広い土地を活かした太陽光発電や、風の強さを利用した風力発電などが盛んに行われており、バイオマス発電の計画もあります。
- 石狩市は、この「**地域のエネルギー**」を使って、**CO<sub>2</sub>を減らしながら、地域を元気にする**仕組み、「**石狩版地域循環共生圏**」の実現を目指しています。



## 地域循環共生圏とは？

- それぞれの地域が持つ自然などの資源を上手に使うことで、自立した地域を作りつつ、足りないところは周りの地域と支えあうことで、地域の魅力を最大限に引き出すことを目指す考え方を「地域循環共生圏」といいます。
- 自然の恵みを上手に使うって、地域の自然や環境を守るのと同時に、地域の社会や経済にも貢献しようという考え方で、例えば、地域の再エネを地域で使うことで、発電機の建設や修理、さらにバイオマスであれば燃料の調達など、新しい仕事が生まれ、地域の活性化につながるというものです。

例えば.....

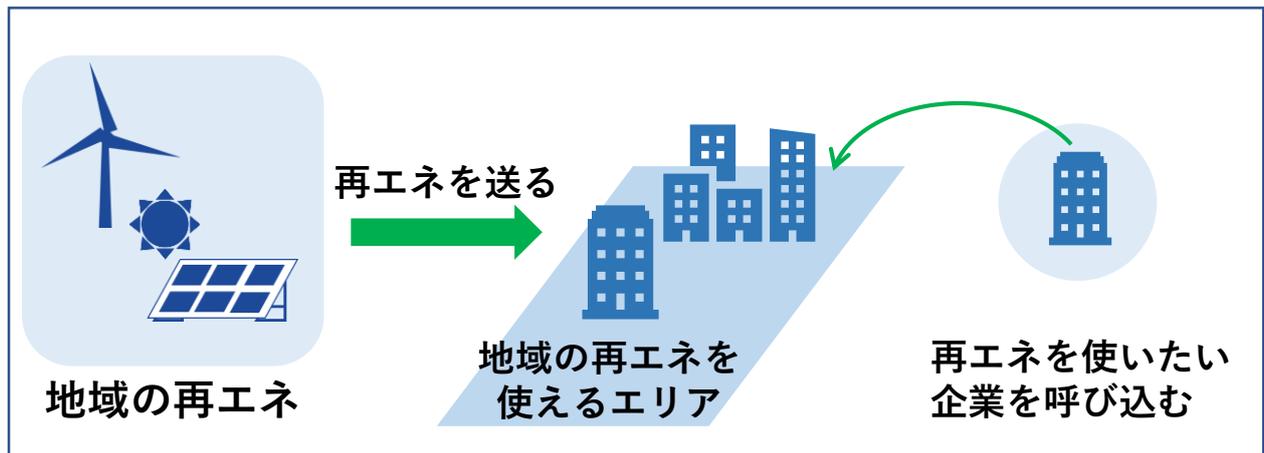


環境を守ると同時に地域を元気にする考え方

# 「石狩版地域循環共生圏」の実現に向けた取り組み

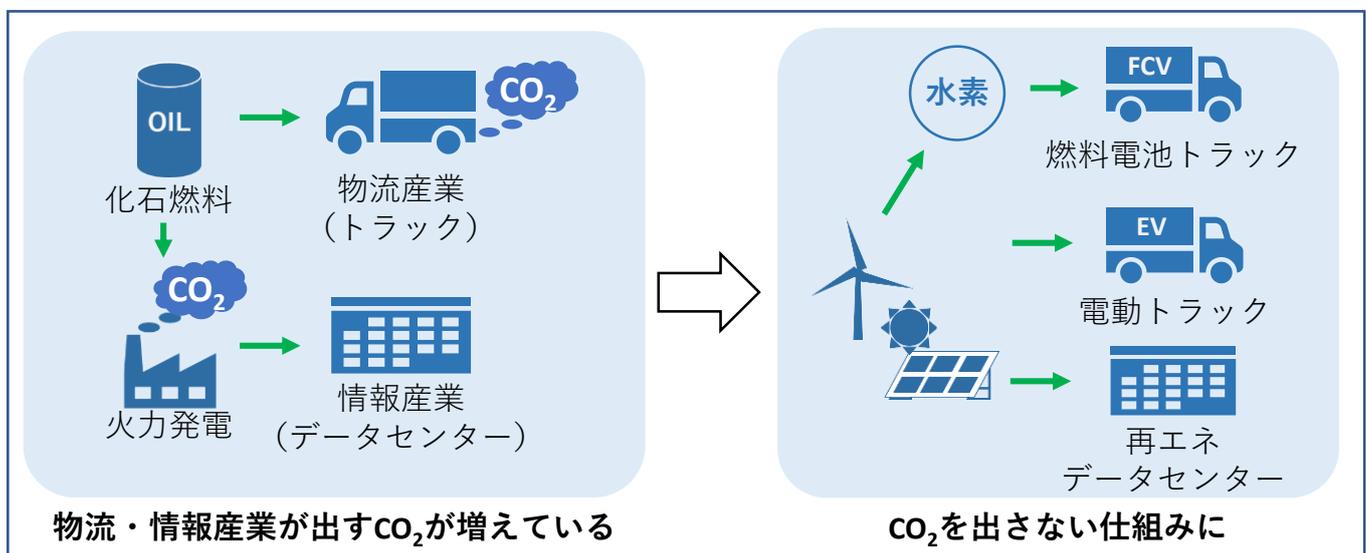
## ① 地元でできた再エネを使えるエリアを作ります

- 世界では、再エネに注目が集まり、再エネを使って事業がしたいという企業が増えています。
- そうした企業に、「石狩で事業がしたい」と思ってもらえるように、100%再エネで事業ができるエリア(再エネ100%エリア)の実現を目指します。



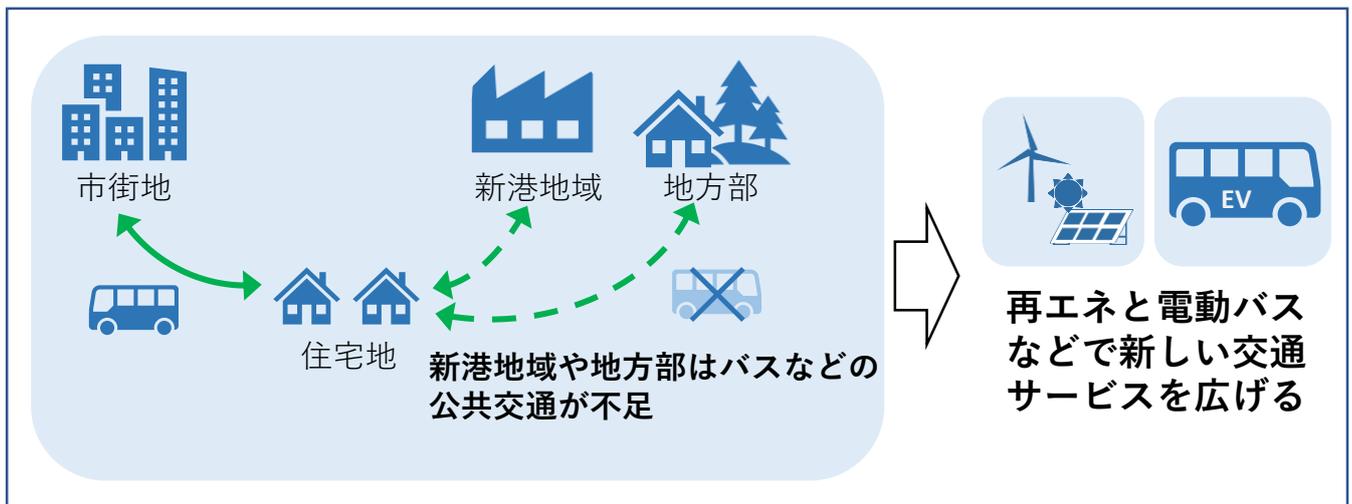
## ② 物流産業や情報産業が出すCO<sub>2</sub>を減らします

- 石狩湾新港地域には、外国から港に届いた荷物を札幌に運んだり、北海道中から集めた荷物を港にもっていったりする「物流産業」や、スマホなどのアプリの動きを支えるデータセンターといった「情報産業」が集まっています。
- 一方、このような産業から出るCO<sub>2</sub>も増えています。
- そこで、データセンターで使う電気を再エネにしたり、電気や水素で動くトラックを増やして、こうした産業から出るCO<sub>2</sub>を減らすことを目指します。



### ③ CO<sub>2</sub>排出を減らしながら、公共交通サービスを広げます

- 石狩市には、バスが通っていないかったり、本数が少なく使いづらい場所があります。
- 例えば、**石狩湾新港地域や地方部**はバスなどの**公共交通が不足**しています。
- そこで、再エネで作った電気や水素で動くバスなどを使って、こうした地域に**新しい交通サービスを広げる**ことを目指します。



この仕組みを実現し、CO<sub>2</sub>排出を減らして地球温暖化を防ぎながら、地域の発展も実現できるよう、取り組みを進めます。